植物のあっぱれなまでの婚活！

先に当 HP で「生命体？　生物？　植物？　動物？（覚え書）（HP「雑学 BN」の覚え書関係（Ⅲ）、2012.07.01.：参照）」を掲載したことがあったからか、新聞の書籍広告で書籍「植物のあっぱれな生き方～生を全うする驚異のしくみ～」が目に止まり、植物のことが少しでも分かればと、購読した。

著者は、子どもの質問に専門家が答えるラジオ番組を担当していた学者だけに、実に分かり易く、色んな植物の仕組みを、庭に植えているキューリの一株に咲く花に雌花と雄花があることすら知らなかった自分のような全くの素人でも面白く読める解説書だった（全くの素人に、専門分野の話を、こうも優しく、分かり易く解説する力量ある著者は、正にプロ！）。

さて、動物が動きまわる理由は、「①食べ物を求めて　②子孫を残すために、相手を探し求めて　③自分の体を守り、次世代へ命を繋いでいくため」ということは誰もが分かることであり、それが「生物」の生きる目的とも云える。

本書では、動き回れない植物が、生物としての上述の３つの理由というか目的を叶えるために、「生を全うする驚異のしくみ」が解説されており、驚異というより書名にあるようにその生き方（仕組み）は「あっぱれ！」との表現がぴったしきた。
益して、我々の身近なよく知ってる草花、野菜、果物、樹木を通して解説してくれているだけに、より身近に理解できた。

植物は花粉を、よりたくましい子孫（種）を残すべく、他の株の花に運んでくれる昆虫のために、美しくきれいな花を咲かせて装い、いい香りで誘い、ご馳走（蜜）まで準備している等の「婚活に勤しんでいるしくみ」については、時にユーモラスに我々人間に絡ませながら語られているので、読んでいて面白い！

著者は、「『自分のからだを健全に守り、次の世代へ命を繋いでいくしくみや工夫に目を向けて欲しい。もう少し、私たちの生き方に興味もって欲しい。』というのが、植物たちの正直な気持ちでないでしょうか。」と、「おわりに」に記している。
読み終えて、「今頃になって！」と叱責されそうだが、植物もやはり「生物だ！」ということであり、我々人間の「生」や「生き方」にも多くのヒントを与えてくれそうな気がした。

阿部幸泰　　（2013 年 7 月 19 日　記）